

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	天王寺区
学校名	大阪市立生魂小学校
学校長名	赤石 美保子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立生魂小学校では、第6学年 42名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科すべての教科において、全国平均を大きく上回っていた。これまで落ち着いた環境の中で、課題解決型の学習に取り組み、主体的に考え、相互に意見を交流しながら、学習に取り組んできた成果がみられた。児童質問紙では、「学校に行くことが楽しいと思いますか」の質問に対して肯定的な回答が全国平均より高く、学校に行くことが楽しいと感じている児童が多いとともに、家庭でも安定した環境で、学習に取り組んでいる様子がみられた。また、平均無回答率も全教科とも全国平均を下回っており、最後まであきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢がみられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 平均正答率は、全国平均より7.2ポイント高かった。学習指導要領の内容別にみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、10ポイント高かった。低学年から継続的に取り組んできた漢字学習や漢字検定の取組により、漢字の定着に成果がみられた。

〔算数〕 平均正答率は、全国平均より11ポイント上回っており、すべての領域において全国平均を上回っていた。個に応じた指導の充実やI C Tを活用した効果的な学習などによって基礎基本の定着及び知識・技能の習得につながったと考えられる。また、課題解決型学習に取り組む中で、互いの考えを伝え合いながら、自らの考えを深めていくことに取り組む成果もみられた。

〔理科〕 平均正答率は、全国平均より9.9ポイント上回っており、すべての領域において全国平均を上回っていた。観察や理科実験において、予想・計画・実験・考察する時間を十分にとることにより、学習の定着に結びついている。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思う」の項目では、肯定的回答が全国平均を6.7ポイント上回り、「人の役に立つ人間になりたいですか」の項目では肯定的回答が100ポイントであった。自己肯定感や自己有用感をもって前向きに学校生活を送っている様子が窺える。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目においては、2時間以上学習する児童の割合が全国より24ポイント高い。さらに、「学校に行くのは楽しいと思う」の問いに、肯定的に回答した児童の割合が全国平均より11.4ポイント高かった。落ち着いた家庭環境で、家庭学習にもしっかりと取り組み、学校に対して好感をもっている児童が多くみられた。

今後の取組(アクションプラン)

これまでの学校の取組と家庭との協力により、学校に行くことを楽しく感じ、いきいきと学校生活を送っている。また、家庭での教育力の向上も見られている。今後も家庭と協力して、共に子どもの成長を促し、見守り、育成していく。本校が2年間研究している、総合読解力育成プログラムでは、情報を正しく読み取り要約することに加え、読み取ったものから考えを形成し、さらにその考えを表現するとともに、交流してその考えを広めたり深めたりしている。その結果、児童質問紙において「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか」の項目で肯定的回答が、全国平均を上回っている。今後も、他の教科につなげていくように研究を進めていく。6年間の漢字検定の取組の成果がみられ、基礎・基本の定着につながり、各自の目標に向かい学習に取り組むことで、達成感を味わうことができている。今後も、児童が主体的・意欲的に学習に取り組むために、1人1台学習用端末を効率的に活用しながら、発表や話し合いなどの協働学習を機会あるごとに取り入れていく。

【 全体の概要 】

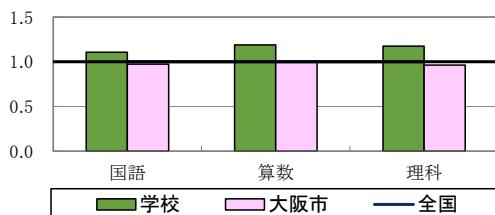
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	74	69	67
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

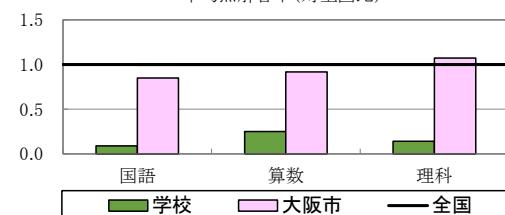
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	0.3	0.9	0.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



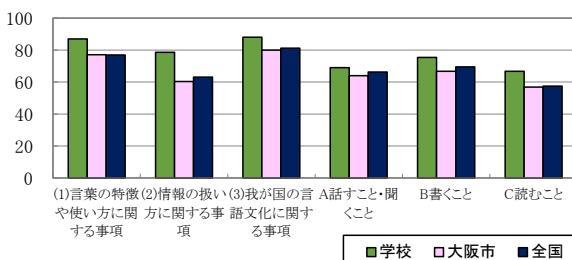
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	86.9	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	78.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	88.1	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	69.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	75.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	66.7	56.9	57.5

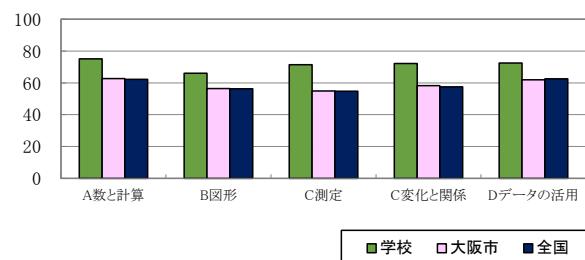
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	75.0	62.7	62.3
B 図形	4	66.1	56.4	56.2
C 測定	2	71.4	54.9	54.8
C 変化と関係	3	72.2	58.2	57.5
D データの活用	5	72.4	61.9	62.6

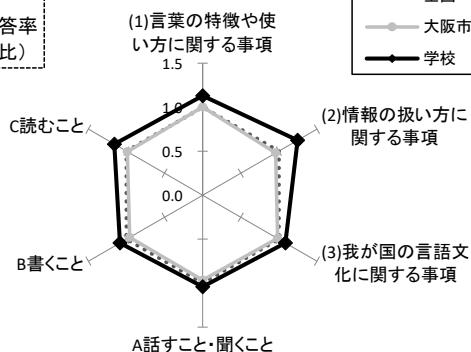
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



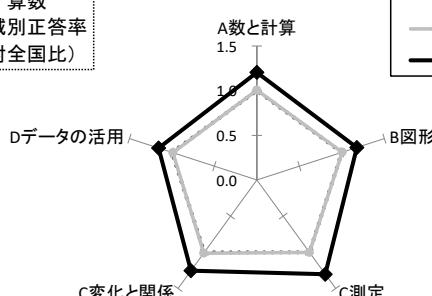
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

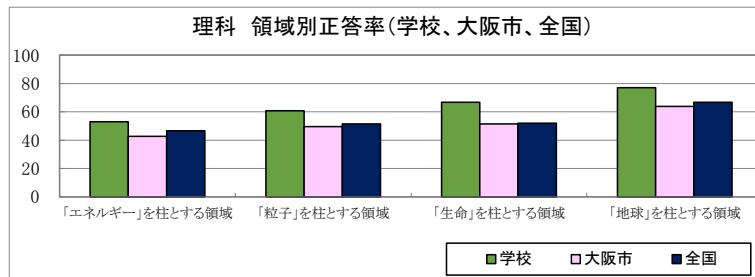


算数
領域別正答率
(対全国比)

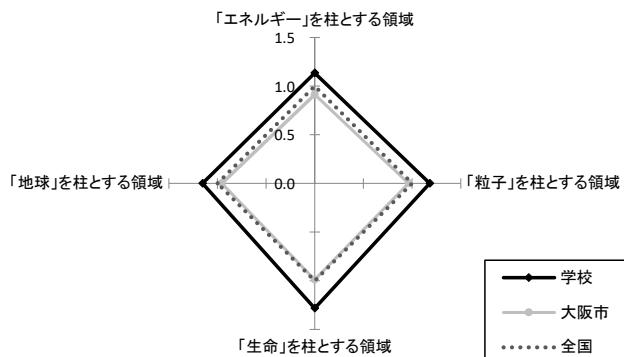


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 分 区	「エネルギー」を柱とする領域	4	53.0	42.7	46.7
	「粒子」を柱とする領域	6	60.7	49.5	51.4
B 分 区	「生命」を柱とする領域	4	66.7	51.4	52.0
	「地球」を柱とする領域	6	77.0	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



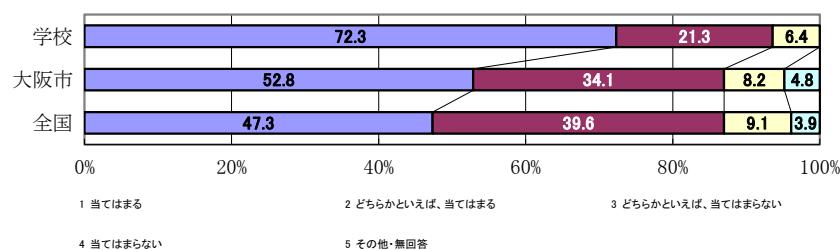
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

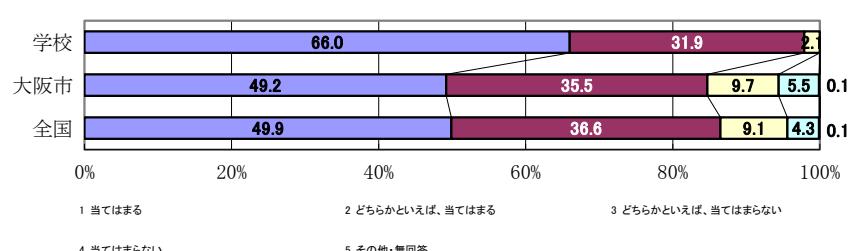
5

自分には、よいところがあると思いますか



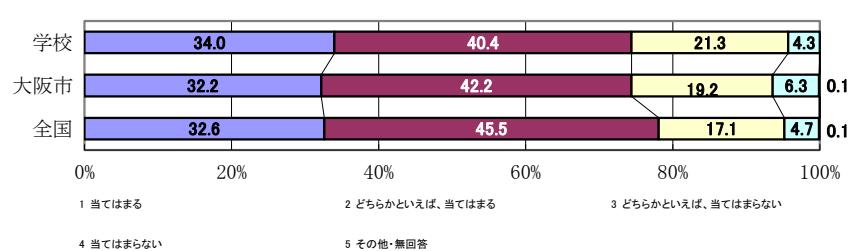
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



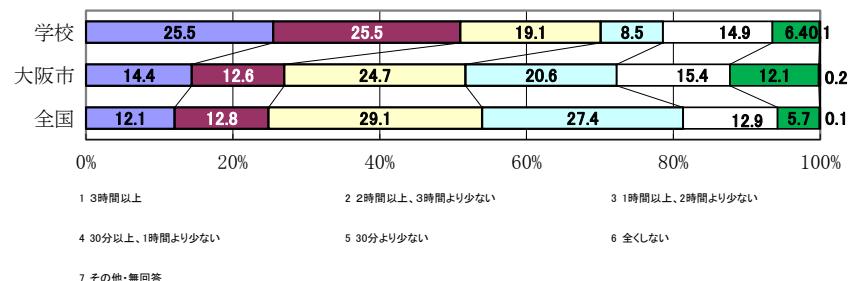
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



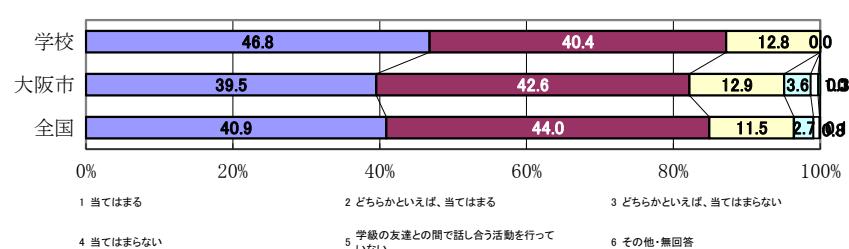
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)?



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

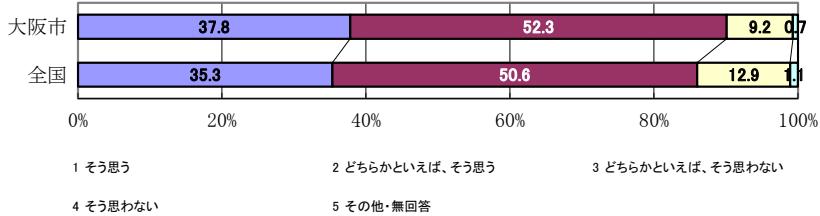
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

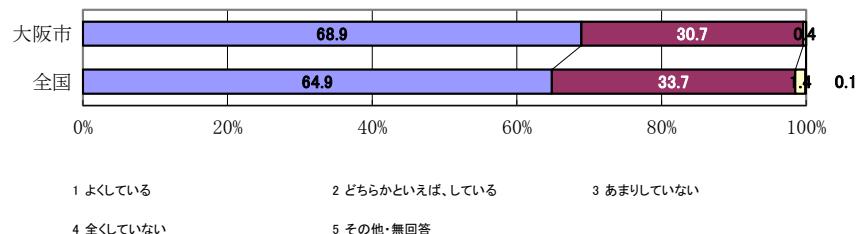
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

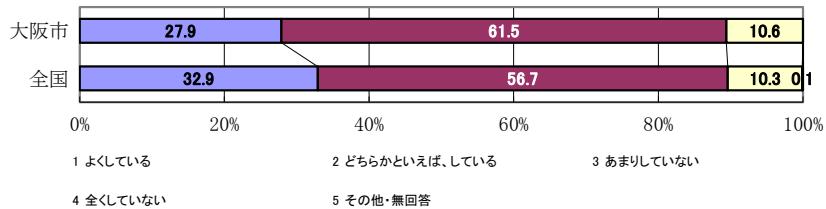
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

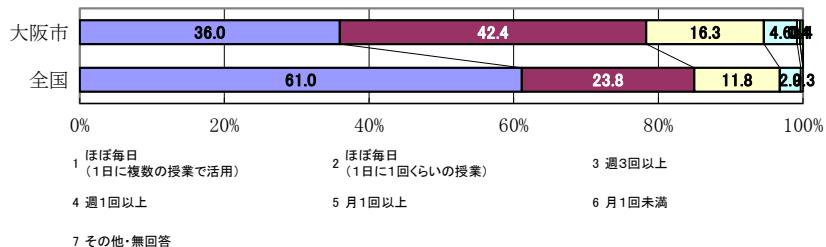
学校 「よくしている」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択



59

調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択

